

当院で経験した小児の新型コロナウイルス感染症の報告

河本 浩二

(医療法人健和会 かわもとこどもクリニック)

【概要】

当院では 2021 年 10 月から発熱などの臨床症状のある患者を対象として新型コロナウイルスの抗原検査を実施している。2021 年 12 月の第 5 波までは当院では陽性は 1 人も発生しなかったが、2022 年 1 月以降、検査陽性者が発生し初期治療および健康観察を行っている。当院で 2022 年 1 月から 5 月までに経験した新型コロナウイルス感染症の陽性者について臨床経過をまとめたので報告する。

【方法・対象・結果】

発熱患者は専用の入口を使用し、抗原検査は処置室でビニールカーテン内に隔離した状態で行った。症例数の増加に伴い自家用車で窓から施行した。

2022 年 1 月から 2022 年 5 月までに延べ 946 人の発熱などの患者を診察し 592 回の抗原検査を施行した。検査陽性者は 184 例で陽性率は 31%だった。同居の家族が陽性者で発熱の症状を認めてみなし陽性と診断した症例が 42 例、自宅で抗原キットを用いて陽性だったのを確認した症例が 5 例いた。

今回は陽性者の多かった 2 月および 3 月の症例について臨床症状をまとめた。

この期間に 271 回の抗原検査を施行して 108 人の陽性者を認めた。

141 例全例を軽症と判断した。臨床症状では 38℃以上の熱：120 例(83.9%)、咳：75 例(53.8%)、全身倦怠感：67 例(46.9%)、頭痛：58 例(40.6%)が多かった。夜間の覚醒や咳き込み嘔吐を伴う激しい咳は 6 例のみで酸素飽和度の低下を認めた症例はなかった。

一方検査した 271 例の症状別の陽性者数、陰性者数、陽性率を調べた。陽性率は激しい咳が 25%と低かったがそれ以外の症状ではあまり差がなく臨床症状から COVID19 を疑うのは困難であった。

【考察】

小児の COVID19 は軽症が多く、当院の症例もほとんど発症 5 日以内に軽快していた。

小児の健全な発育のためには学校活動を含めた集団への参加も重要であり、今後は感染リスクを避けることと日常生活を維持することのバランスが大事である。ただし今回の検討では症例数が限られており今後も COVID19 の症状の蓄積が必要である。